

令和6年度 京都府立福知山高等学校附属中学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 実施段階 ）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
◎「個を活かし、公に生きる人間」の育成 ◎「グローバルに活躍する人間」の育成 これらの推進のため、 ・5K力（「感じる力」、「考える力」、「行動する力」、「向上する力」、「関わる力」） ・いつの時代のおいても生き抜くことのできる力（汎用的能力）を身に付け、自らの「みらい」を創造する力の育成に努める。 ・バランス感覚のある、人間としての総合力をはぐくむ教育を推進する。	（成果） 1 きめ細かな指導や各学年実施の少人数授業を活用した専門性の高い授業展開を通して、学力向上を図ることができた。また、タブレット等ICTの活用を積極的に行うことで「主体的で対話的な学び」の促進につなげることができた。 2 地域理解を深めることを通じて社会の抱える課題の解決に向けて取り組むなど、総合的な学習の時間「みらい楽」を中心に据え、探究的な学びを進めていくことができた。特に、企業や行政と連携することで主体的に地域や社会と関わり、発信しながら学びを深めることができた。さらに、探究活動の成果報告会を実施し、着眼点や手法等を習得するとともに、発表だけでなく外部への発信をすることができた。 3 部活動においては、高校と連携しながら活動する部活動があるとともに、部活動加入率も高かった。また複数の部活動が市内大会3位以内の結果を残した。さらに、中学校での部活動引退後も切れ目なく高校の部活動に参加するなど、6年間を見通した部活動運営ができた。生徒会活動においても、生徒が中心となり生徒会行事を運営した。 4 こまめな家庭連絡や三者面談など、日常的な家庭との連携を密にとることで、信頼関係を築くことができた。 5 学校説明会や「附属中だより」など、いきいきとした生徒の様子を小学校や地域に発信することができた。 6 避難訓練を複数回実施するなど、生徒及び教職員が共通認識をもって 安心・安全な学校づくりに努めることができた。 （課題） 1 中高一体となった校内組織を確立するため、6年間を見通しながら、組織としての動きを高め、効率的に教育の質を高めていけるようにする。 2 中高一貫教育校ならではのコラボを充実させるため、本校だけでなく三和分校との協働・交流機会を積極的に設けるなど、異年齢から学び、成長できるようにする。 3 学校全体の教育力向上に向けOJTをさらに推進し、教職員の資質・能力の向上が図れるようにする。	1 中高一貫教育の推進 (1) 中高間及び分掌間の連携を図るとともに、中高一体となった校内組織を確立する。 (2) 中高6年間を見据えて資質・能力を育成するため、中高の接続を意識した中学3年間の指導の充実を図る。 (3) 6年間を見通しながら生徒の発達段階に応じたきめ細かで、組織的な生徒指導体制を確立する。 2 一人一人の学力の向上 (1) 少人数授業等のきめ細かな指導を通して、基礎的・基本的な学力の定着を徹底するとともに、わかる喜びを実感させる。 (2) 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行い、思考力、判断力、表現力を育成する。 (3) ICTを効果的に活用した授業改善を推進する。 (4) 総合的な学習の時間「みらい楽」や体験活動を通して生徒自らが課題を設定し、探究の楽しさを実感させ、社会や地域の課題解決に主体的に取り組む姿勢を養う。 3 「福高コラボ」の推進 各種行事や部活動、生徒会活動等での協働活動を通して、異年齢との関わりから学び、刺激を受け、成長できるような、中高一貫教育校ならではのコラボを実施する。 4 健やかな身体と豊かな人間性の育成 学級活動や学校行事、部活動、伝統文化体験授業等を通して、心身を鍛えるとともに、仲間づくりの大切さに気づかせ、人権意識や規範意識、思いやりの心を育む。 5 学校組織の改善と見直し 教職員の資質・能力の向上と、学校全体の教育力向上のため、中高、各分掌、各教科の在り方を含めた業務改善と効率化を図る。 6 適正な学校運営と安心・安全な学校づくり 全教職員が危機管理意識や防災意識を持ち、学校全体を見通した危険個所の早期発見や日々の点検に努め、適正な学校運営にあたる。学校防災や感染症対応など、生徒・保護者・教職員が共通認識をもち、危機管理体制を確立し、安心・安全な学校を作る。 7 家庭・地域・関係機関との連携の強化 (1) 積極的に家庭連絡・家庭訪問を行うなど、家庭との連携を密にして信頼関係を築く。 (2) 地域学習や地域連携活動等を通して、積極的に地域や外部機関と関わろうとする姿勢と行動力を育む。

評価領域	重点目標（取組の重点課題）	具 体 的 方 策	評価			成果と課題															
組織・運営	【 中高の接続を意識した指導の充実 】 6年間を見通しながら、I C Tや少人数授業を効果的に行い、基礎的な学力の定着の徹底及び探究的な視点からの学びを充実させる。	中高6年間で育む資質・能力を意識した指導の充実を図ることを通じて、生徒の発達段階に応じた、深い学びを実現していく。 【 学校経営計画（実施段階）を指標とする 】 〔年度末評価 A, B評価の教科数（全10教科）〕 <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>10・9教科</td><td>8・7教科</td><td>6・5教科</td><td>4教科以下</td></tr></table> ----- 【 学校評価アンケート（生徒）を指標とする 】 〔本校は学力向上に十分努めていると思う割合〕 <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>80%以上</td><td>79～60%</td><td>59～45%</td><td>44%以下</td></tr></table>	A	B	C	D	10・9教科	8・7教科	6・5教科	4教科以下	A	B	C	D	80%以上	79～60%	59～45%	44%以下	A	A	○A評価4教科、B評価が6教科で、あった。 ○生徒が肯定的に回答した割合は93.3%であった。 ○保護者が肯定的に回答した割合は95.3%であった。また内部評価による肯定的回答は64%であった。 ○入学者選抜の志願者倍率は過去10年間で最低の1.35倍であった。高校を含めた本校のいまある魅力が正しく伝わるためには、どの対象にどのタイミングでどのように広報をするのが有効であるかを再度確認し、最終的に志願者増に繋がるよう対処していきたい。 ○中丹管内の中学生徒数の減少、気質の変化、また私学の動向を踏まえ、学校の魅力そのものの不易流行やその見せ方についても検討を続ける必要がある。
	A	B	C	D																	
	10・9教科	8・7教科	6・5教科	4教科以下																	
A	B	C	D																		
80%以上	79～60%	59～45%	44%以下																		
【 学校全体の教育力向上の視点からの組織改善 】 学校全体の教育力向上のため、中高の在り方を含めた校内体制の確立及び業務の効率化を図っていく。	業務の平準化を進めるとともに、教職員の資質・能力の向上を通じて業務改善と効率化を図っていけるようにする。 【 学校評価アンケート（保護者）を指標とする 】 〔本校は魅力的な学校だと思う割合〕 <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>80%以上</td><td>79～60%</td><td>59～45%</td><td>44%以下</td></tr></table> ----- 【 内部評価を指標とする 】 〔本校は魅力的な学校だと思う割合〕 <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>80%以上</td><td>79～60%</td><td>59～45%</td><td>44%以下</td></tr></table>	A	B	C	D	80%以上	79～60%	59～45%	44%以下	A	B	C	D	80%以上	79～60%	59～45%	44%以下	A	B		
A	B	C	D																		
80%以上	79～60%	59～45%	44%以下																		
A	B	C	D																		
80%以上	79～60%	59～45%	44%以下																		
【 効果的な広報活動の充実 】 「附属中だより」や学校説明会等を通じて、本校の魅力を効果的に発信することで生徒募集につなげていく。	本校に対する理解や教育活動の充実を図ることで、広報や生徒募集につなげていく。 〔募集定員に対する志願者数の割合〕 <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>2.0倍以上</td><td>1.7倍以上</td><td>1.4倍以上</td><td>1.4倍未満</td></tr></table>	A	B	C	D	2.0倍以上	1.7倍以上	1.4倍以上	1.4倍未満	D											
A	B	C	D																		
2.0倍以上	1.7倍以上	1.4倍以上	1.4倍未満																		

教務部	学力向上に向け、主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善を進め、主体的な学習態度の育成に努める。	主体的・対話的で深い学びを実現するため、各学年・教科で行われている指導実践を共有し、生徒の学習意欲を高める指導の工夫改善につなげる。 [授業アンケート中の主体的な学習活動に関する質問に対する生徒の自己評価の平均] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>3.6以上</td><td>3.0～3.5</td><td>2.5～2.9</td><td>2.4以下</td></tr></table>	A	B	C	D	3.6以上	3.0～3.5	2.5～2.9	2.4以下	B	C	○授業公開週間における中学と高校の校内教職員対象のものに加え、中学だけの研究授業を設定し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた実践の交流をすることができた。 ○主体的な学習活動に関する質問の平均は3.4、学力向上に関する取組の上位の割合は93.6%であった。更なる向上を目指し、授業力向上に向けた研修会なども設定していく。
	A	B	C	D									
3.6以上	3.0～3.5	2.5～2.9	2.4以下										
高校と連携して、学習過程の見直しにつながるような評価の在り方、ICT活用に向けての研修を進める。	学習指導の改善が生徒の学習過程の見直しに繋がるよう、校内での研修の機会を増やし、各教科間や分掌、学校全体で教育力向上を目指す。 [学校評価アンケート（生徒）の学力向上に関する取組の上位の割合] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>98%以上</td><td>96%以上</td><td>94%以上</td><td>93%以下</td></tr></table>	A	B	C	D	98%以上	96%以上	94%以上	93%以下	D			
A	B	C	D										
98%以上	96%以上	94%以上	93%以下										
生徒指導部	明るく元気に挨拶を交わし、身だしなみを整えることで、よりよい人間関係を築き、社会性を育む。	挨拶、身だしなみについて意識を高められるように、日常的に教員から積極的に声掛けを行う。 [アンケートで、プラス評価の割合の平均値] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>80%以上</td><td>80～65%</td><td>65～50%</td><td>50%未満</td></tr></table>	A	B	C	D	80%以上	80～65%	65～50%	50%未満	A	A	○挨拶、身だしなみ等マナーについてのアンケート結果は、プラス評価の平均が89.1%であり、各学年とも高い評価であった。日頃から声掛けすることで規範意識を高められている。 ○通学マナーについてのアンケート結果は、プラス評価の平均が67.5%であった。外部から並列走行などのご指摘が数件あり、その都度、注意喚起をした。今年度は、自転車の交通ルールをクイズで確認する研修も行った。今後は、生徒会と協力して自転車だけでなく公共交通機関の利用マナーについても働きかけたい。 ○生徒会活動のアンケート結果は、プラス評価の平均が86.0%であった。各々が与えられた役割に
	A	B	C	D									
	80%以上	80～65%	65～50%	50%未満									
交通安全に関わるルールの遵守や通学マナーの向上に向けた指導を行い、交通事故防止につとめる。	通学マナーの向上を呼びかけ、交通事故の防止や他者をおもいやる行動などの啓発運動をする。 [アンケートで、プラス評価の割合の平均値] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>80%以上</td><td>80～65%</td><td>65～50%</td><td>50%未満</td></tr></table>	A	B	C	D	80%以上	80～65%	65～50%	50%未満	B			
A	B	C	D										
80%以上	80～65%	65～50%	50%未満										
「行動する力」「関わる力」を始め、5つの力の育成のため、生徒会執行部を中心とする委員会活動の活性化を図り、主体性と協調性を育む。	生徒会執行部及び各委員会で学校生活の充実に向けた取組を行う。 [アンケートで、プラス評価の割合の平均値] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>80%以上</td><td>80～65%</td><td>65～50%</td><td>50%未満</td></tr></table>	A	B	C	D	80%以上	80～65%	65～50%	50%未満	A			
A	B	C	D										
80%以上	80～65%	65～50%	50%未満										

					責任をもって取り組めた結果である と考える。今後は、各委員会を 中心に活動内容をより充実させて いきたい。								
進路指導部	進路意識を向上させ、夢や希望を持って 高校進学に臨むように指導する。	高校進学後の展望と、大学進学、そして大学卒業後の 進路の見通しを持たせる。 [進路学習後のアンケートで、高校・大学進学や将来の夢に ついて“考えることができた”と答えた生徒の割合] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>80%以上</td><td>65%以上 80%未満</td><td>50%以上 65%未満</td><td>50%未満</td></tr></table>	A	B	C	D	80%以上	65%以上 80%未満	50%以上 65%未満	50%未満	A	B	○2年生では、中断していた職場 体験学習を再開した。2日間で、 働く大人から職業に対する「流儀」 を聞き取り、聞き書きとしてまと めるという学習内容を設定した。 これまで中断していた取組であつ たが、体験の趣旨を説明して依頼 したところ、理解して受け入れて いただき、20の事業所で体験を実 施することができた。 ○各学年での二者面談等の他に、 3年生では、文理科学科の説明会、 冬季講習、高校3年生との交流会 等で、進路について学ぶことがで きた。冬季講習では、高校の教科 担当者から、問題の解説や高校で の学習、進路等について話をして もらうことができた。今後は、1， 2年生の段階からさらに見通しを 持たせるために、推移調査の意義 などについて説明する機会を増や すことも検討する。
		A	B	C	D								
	80%以上	65%以上 80%未満	50%以上 65%未満	50%未満									
高等学校における進路指導の実際を知り、早期から大 学進学や大学進学後の就職を意識したキャリア教育を 推進する。 [大学進学を意識した進路学習の回数] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>6回以上</td><td>4～5回</td><td>2～3回</td><td>1回以下</td></tr></table>	A	B	C	D	6回以上	4～5回	2～3回	1回以下	C				
A	B	C	D										
6回以上	4～5回	2～3回	1回以下										
職場体験学習などを計画し、職業観を 身に付けさせるとともに将来地域社会に貢 献する人材となるべき資質・能力・態度を 身に付けさせる。	職場体験学習を通して、自分自身の職業観を考えさせ る。 [職場体験学習後のアンケートで、“職業観が定まっ ている”と答えた生徒の割合] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>80%以上</td><td>65%以上 80%未満</td><td>50%以上 65%未満</td><td>50%未満</td></tr></table>	A	B	C	D	80%以上	65%以上 80%未満	50%以上 65%未満	50%未満	A			
A	B	C	D										
80%以上	65%以上 80%未満	50%以上 65%未満	50%未満										
保健部	生徒が健やかで安心・安全な学校生活 を送ることができるよう、自らの健康や 安全に対する意識の向上を図る。	生徒が健康で安全な学校生活を送ることができるよう、病 気や怪我の予防、また、授業・部活動・登下校時の災害防 止に努める。定期的に「ほけんだより」、「安全だより」を 発行し、健康・安全に関する啓発を行う。 保健活動、健康観察、体調不良者への対応等に全校体制 で取り組むことができるよう、情報提供や提案を行う。	B										

		健康診断結果に基づく要治療・再検生徒の受診率の向上を目指す。 [眼科 視力検査で裸眼視力がC・Dの生徒の受診率] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>40%以上</td><td>39～30%</td><td>29～20%</td><td>20%未満</td></tr></table>	A	B	C	D	40%以上	39～30%	29～20%	20%未満			B 受診した生徒もあり、生徒の受診率は37%であった。 ○保健委員会の活動回数は、ランチミーティングを複数回実施するなど、10回以上行った。 今年度はスマートフォンやタブレットの使用が健康に及ぼす影響について、自分たちで台本、小道具を準備し動画作成を行い集会で発表した。身近なところから健康について考える機会を持ち、啓発することができた。
A	B	C	D										
40%以上	39～30%	29～20%	20%未満										
	健康教育の充実を図り、自らの健康管理に対する意識を高める。	学校保健活動や学校環境に関心を持ち、感染症予防も含め、換気の励行に努める。 保健委員による保健・衛生活動等を企画して行い、生徒の健康意識を高める。 [保健委員会の取組の数] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>7回以上</td><td>6回</td><td>5回</td><td>5回未満</td></tr></table>	A	B	C	D	7回以上	6回	5回	5回未満	A		
A	B	C	D										
7回以上	6回	5回	5回未満										
人権教育部	様々な人権問題についての正しい理解や認識を深め、人権尊重の実践的態度を養う。	学年や他分掌との連携を深め、人権学習の教材や指導方法の改善に努める。 [学校評価アンケート 生徒の人権学習に対するプラス評価平均] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>90%以上</td><td>85%以上</td><td>80%以上</td><td>80%未満</td></tr></table>	A	B	C	D	90%以上	85%以上	80%以上	80%未満	A	A ○人権学習については、各学年で学習内容の検討を行い、集団作りや性の多様性などの分野で、新たな教材を用いて授業を行うことができた。 ○特に1年生では、いじめや人間関係の形成について、人権学習、道徳、学活、教科指導などの様々な場面で指導を行った。 ○教職員人権研修は、高校と合同で実施した。	
	A	B	C	D									
90%以上	85%以上	80%以上	80%未満										
	教職員の人権意識の高揚を図り、指導力の向上に努める。	教職員人権研修を充実させ、教職員の指導力の向上を図る。 [教職員人権研修の実施] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>3回</td><td>2回</td><td>1回</td><td>0回</td></tr></table>	A	B	C	D	3回	2回	1回	0回	A		
A	B	C	D										
3回	2回	1回	0回										
総務企画部	本校の特色ある取組や、生徒の充実した学校生活の様子を地域の方や小学生またその保護者等に正しく知ってもらえるよう広報誌(附属中だより、附属中案内)やホームページ等による情報発信、各種説明会を工夫し、発展させる。また本校生徒・保護者に対しても同様に本校の取組等をこれまで以上に知ってもらうようあら	在校生とその保護者に本校の活動の様子をよりよく知ってもらうように、分掌内外の連携を強化し、ホームページや附属中たより等を媒体に積極的に情報発信することで広報に関する満足度を高める。 [学校評価アンケート(保護者用)問11「ホームページ等広報」におけるプラス評価の割合(全学年の平均値)] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>75%以上</td><td>65%以上</td><td>55%以上</td><td>55%未満</td></tr></table>	A	B	C	D	75%以上	65%以上	55%以上	55%未満	A		○学校評価アンケートの該当プラス評価の3学年平均は82.5と昨年(83.1)より若干下がったものの目標となる数値は達成できた。多くの媒体を利用して、本校での活動が保護者に伝わるようにさらに工夫してしたいと思う ○小学生と保護者へのアプローチ
A	B	C	D										
75%以上	65%以上	55%以上	55%未満										

	ゆる手段を使い務める。	ホームページや広報誌(附属中だより、附属中案内)、小学生対象の説明会等の広報に関わる様々な取組の内容や方法を改善していくことで、本校の魅力を正しく知ってもらうよう努め、志願者の増加を目指す。 [附属中の取組を外部に広報する機会] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>30回以上</td><td>20回以上</td><td>15回以上</td><td>15回未満</td></tr></table>	A	B	C	D	30回以上	20回以上	15回以上	15回未満	B	B	は昨年の形を踏襲した。しかしながら、受検生が減少しており、幅広い層に本校を知ってもらう工夫をしていく必要性を強く感じた。来年度は、4.5年生も含めたアプローチを早い段階から実施し、小学生保護者により本校を知ってもらうよう工夫したい。
A	B	C	D										
30回以上	20回以上	15回以上	15回未満										
みらい探究部	みらい楽において身につけさせたい力を明確にし、それらの力がどれくらい身についたのか確認し、今後改善していく部分を明確にすることで、生徒が主体的に学ぶ力を高める。	みらい楽において、課題研究に必要なスキル、研究の進め方や発表の仕方、評価の方法等を工夫・改善し、より系統的で深い学びとするための学習計画を作成する。 [担当者の評価による計画と実施内容の達成度] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>90%以上</td><td>80%以上</td><td>70%以上</td><td>70%未満</td></tr></table>	A	B	C	D	90%以上	80%以上	70%以上	70%未満	A	A	○観点1について 1年生は「食への探究」、2年生は「キャリア教育から地域課題解決学習」、3年生は「プロジェクト型の地域課題解決学習」、それぞれテーマとして設定し活動した。各学年とも系統的な学習計画を策定し、ほぼ計画通りに実施することができた。 ○観点2について スキル向上の平均値について、 みらい楽Ⅰ 0.62 みらい楽Ⅱ 0.66 みらい楽Ⅲ 0.50 となり、生徒も数値からスキル 向上を実感することができた。 ○観点2について 合計122名の生徒が講座に参加することができた。これも担任の先生が土曜講座への声掛けをさせていただいた先生方のお力添えのおかげである。 来年度も引き続き、知的好奇心を高めるように声掛けをしていきたい。
		A	B	C	D								
	90%以上	80%以上	70%以上	70%未満									
みらい楽における探究活動を通して5 K力（感じる力・考える力・行動する力・向上する力・関わる力）及び課題対応力などの汎用的能力を高める。 [生徒の自己評価によるスキル向上平均値] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>0.5以上</td><td>0.4以上</td><td>0.2以上</td><td>0.2未満</td></tr></table>	A	B	C	D	0.5以上	0.4以上	0.2以上	0.2未満	A				
A	B	C	D										
0.5以上	0.4以上	0.2以上	0.2未満										
土曜講座を通して、学校における授業の深化・発展や基礎補充、地域における多様な学習や体験等ができる豊かな学びの環境を提供する。	生徒のさらなる成長を支え、興味を持って主体的に学習に向かう力を向上させるために積極的に土曜講座を活用する。 [土曜講座に参加した附属中学生数] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>80名以上</td><td>50名以上</td><td>30名以上</td><td>30名未満</td></tr></table>	A	B	C	D	80名以上	50名以上	30名以上	30名未満	A			
A	B	C	D										
80名以上	50名以上	30名以上	30名未満										
図書	読書活動を推進し、5つの力を基盤と	豊かな読書活動を推進するために、図書委員会が図			○図書館活用は探究活動以外では昨年								

視聴覚部	した「知識に裏付けされた判断力」「豊かな表現力」「感性を磨く力」を育成する。	書館と学級の架け橋となるよう支援する。 学年、分掌、教科と連携し、図書館活用の機会を増やすとともに、活用内容の充実を図る。 [授業での図書館活用回数（みらい楽を除く）] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>35回以上</td><td>34～25回</td><td>24～15回</td><td>14回以下</td></tr></table>	A	B	C	D	35回以上	34～25回	24～15回	14回以下	B	B	度の27回に比べて34回に増加した。教科数は昨年同様3教科であった。また、みらい楽では23回であった。関連図書や資料の貸出を行い、学習の充実を図ることができた。引き続き学校でのICT活用の現状と課題をふまえ、図書館でできることを検討していきたい。 ○PTA活動については、会員の皆様の御協力のもと、朝の交通立ち番や進路講演会の運営、校内の安全点検、福高祭での売店や飲料の配布など、各専門部の事業を予定どおり実施することができた。アンケートの回答は昨年のプラス評価68.7%から7.3ポイント増加した。一方で「わからない」回答も多く、引き続き家庭への情報発信の充実が必要と考えられる。 〔PTA活動に対するプラス評価76.0%〕
	A	B	C	D									
35回以上	34～25回	24～15回	14回以下										
P T A活動を推進し、保護者や府民の学校理解につなげる。	P T A活動が円滑に運営されるよう、事務局としての役割を果たす。学校行事やP T A活動について「さくら連絡網」を活用した、継続的かつ安定的な情報発信を行うとともに、機能充実に努める。 [保護者対象学校評価アンケートのP T A活動に対するプラス評価] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>80%以上</td><td>70～79%</td><td>60～69%</td><td>60%未満</td></tr></table>	A	B	C	D	80%以上	70～79%	60～69%	60%未満	B			
A	B	C	D										
80%以上	70～79%	60～69%	60%未満										
第1学年	中高一貫教育校であることを実感し、充実した学級生活が送れるような学級経営を行う。	高校生との交流や協働活動を充実させるとともに、生徒指導、教育相談等を適切に行い、生徒を生かす学級経営に努める。 [学校評価アンケート(学力向上、悩み不安の解消、福高コラボ)に対するプラス評価平均値の割合] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>80%以上</td><td>70%以上</td><td>60%以上</td><td>60%未満</td></tr></table>	A	B	C	D	80%以上	70%以上	60%以上	60%未満	A	A	○生徒が落ち着いて学校生活を送れるように、いじめや人間関係の作り方について丁寧な指導を行った。また、必要に応じて、中学校教員を中心に見守りを行い、落ち着いて学校生活が送れるようにした。冬季休業中には、保護者を対象に、希望者の二者面談を行い、家庭との連携にも努めた。 ○みらい楽では、食に関する事業をされている方とも連携して調査活動を行い、発表にまとめることができた。
	A	B	C	D									
80%以上	70%以上	60%以上	60%未満										
総合的な学習の時間「みらい楽」を通して、他者との対話を重ね、様々な考え方に触れながら、問題をよりよく解決するための資質・能力を育む。	総合的な学習の時間「みらい楽」の時間を活用し、フィールドワークや書籍、インターネットを通して、グローバルな視点で課題を捉え、グループや個人での探究学習を実施する。 [生徒の自己評価によるスキル向上平均値] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr></table>	A	B	C	D	A							
A	B	C	D										

		<table><tr><td>1.0以上</td><td>0.7以上</td><td>0.4以上</td><td>0.4未満</td></tr></table>	1.0以上	0.7以上	0.4以上	0.4未満							
1.0以上	0.7以上	0.4以上	0.4未満										
第2学年	中高一貫教育校であることを実感し、充実した学級生活が送れるような学級経営を行う。	高校生との交流や協働活動を充実させるとともに、生徒指導、教育相談等を適切に行い、生徒を生かす学級経営に努める。 [学校評価アンケート(学力向上、悩み不安の解消、福高コラボ)に対するプラス評価平均値の割合] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>80%以上</td><td>70%以上</td><td>60%以上</td><td>60%未満</td></tr></table>	A	B	C	D	80%以上	70%以上	60%以上	60%未満	C	B	○学力向上90%、悩み不安の解消82.5%に対して、福高コラボ27.5%。生徒は、高校生との交流をもっともちたいという思いと、中学生としてもっと活動したいという思いを持っている。悩みや不安については、面談や個別指導により、丁寧に対応した。 ○みらい楽では、働く大人に話を聞いて聞き書きを作成するという活動を設定して、2日間の職場体験学習（20カ所）を実施することができた。
	A	B	C	D									
80%以上	70%以上	60%以上	60%未満										
総合的な学習の時間「みらい楽」を通して、他者との対話を重ね、様々な考え方に触れながら「人はなぜ働くのか」という問いに対する納得解を見出す。	総合的な学習の時間「みらい楽」の時間を活用し、課題解決型学習の手法を取り入れた探究学習を実施する。また、職場体験も実施する。 [生徒の自己評価によるスキル向上平均値] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>1.0以上</td><td>0.7以上</td><td>0.4以上</td><td>0.4未満</td></tr></table>	A	B	C	D	1.0以上	0.7以上	0.4以上	0.4未満	A			
A	B	C	D										
1.0以上	0.7以上	0.4以上	0.4未満										
第3学年	中高一貫教育校であることを実感し、充実した学級生活が送れるような学級経営を行う。	高校生との交流や協働活動を充実させるとともに、生徒指導、教育相談等を適切に行い、生徒を生かす学級経営に努める。 [学校評価アンケート(学力向上、悩み不安の解消、福高コラボ)に対するプラス評価平均値の割合] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>80%以上</td><td>70%以上</td><td>60%以上</td><td>50%以上</td></tr></table>	A	B	C	D	80%以上	70%以上	60%以上	50%以上	B	B	○学力向上と悩み不安の解消については、1年生の時から3年間を通して90%以上となっている。今年度は、高校の先生から高校について話を聞いたり、教科の内容について講義を受けたりして、進学に備えることができた。 ○みらい楽では、6つのグループに分かれて、地域の課題解決を目指す、課題解決型の学習を行った。市役所や小学校などの公的機関、地域の商店や個人事業主の方など、多くの方に協力をいただき、学習を進めることができた。
	A	B	C	D									
80%以上	70%以上	60%以上	50%以上										
総合的な学習の時間「みらい楽」を通して、様々な考え方に触れながら、地域社会の現状や課題を分析し、解決策を考え実行する資質・能力を育む。	総合的な学習の時間「みらい楽」の時間を活用し、課題解決型学習の手法を取り入れた探究学習を実施する。 [生徒の自己評価によるスキル向上平均値] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>1.0以上</td><td>0.7以上</td><td>0.4以上</td><td>0.4未満</td></tr></table>	A	B	C	D	1.0以上	0.7以上	0.4以上	0.4未満	A			
A	B	C	D										
1.0以上	0.7以上	0.4以上	0.4未満										
事務部	安心・安全な学校とするため、施設・設備の維持管理を徹底する。	危機管理意識を常に持ち、危険箇所の早期発見・早期改修に努める。 [危険箇所に対する改修率]	B		○安心・安全な学校の維持に向け、危険箇所の早期発見に努め、今年度は、特に熱中症対策が求め								

		<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>90%以上</td><td>89～70%</td><td>69～50%</td><td>50%未満</td></tr></table>	A	B	C	D	90%以上	89～70%	69～50%	50%未満			B られる中、岳南グラウンドにクーリングルームを設置した。 ○運営費の執行に当たっては、光熱水費た物価の高騰の中、費用対効果を見極めた執行に努めた。 ○運営費の執行に当たっては、光熱水費が高騰する中、費用対効果を見極めた執行に努めた。 ○事務室は学校の窓口であり、常に丁寧な対応を心掛け、学校運営に努めた。 ○今後も一層予算確保に努め安心安全な学校づくりに努めたい。
A	B	C	D										
90%以上	89～70%	69～50%	50%未満										
	学校経営方針を推進するため、各分掌・教科と連携し、効果的な予算執行を行う。	各分掌・教科等と連携を密にし、教育的効果のある予算執行を行う。学校経営を推進し、本校教育に即した予算計画の立案、確実な執行に努める。 [教科・分掌の予算執行満足度] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>90%以上</td><td>89～70%</td><td>69～50%</td><td>50%未満</td></tr></table>	A	B	C	D	90%以上	89～70%	69～50%	50%未満	B		
A	B	C	D										
90%以上	89～70%	69～50%	50%未満										
	丁寧、的確及び迅速な窓口業務・電話対応を行う。	府民・保護者との窓口になる対応を、丁寧かつ的確、迅速に行い、円滑な学校運営に努める。	B										
国語科	主体的・対話的で深い学びからの授業改善や、ICTの活用などにより、生徒が意欲的に思考し、表現しようと思える指導の工夫改善に努める。	既習の事項や考え方を生かした表現活動を充実させ、思考への意欲を高めるような言語活動を設定する。 [「授業に意欲的に取り組んでいる」の割合] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>3.6以上</td><td>3.3以上</td><td>3.0以上</td><td>2.9以下</td></tr></table>	A	B	C	D	3.6以上	3.3以上	3.0以上	2.9以下	C	B ○高校の教員が授業を担当したり、中学・高校の授業を公開・参観したりすることで、中学校の授業でしている学習活動や思考の様子を高校の教員と共有したり、中学生に基本的な内容の定着が必要なことを確認したりすることができた。 ○知識・技能については、漢字・文法・語彙などの小テストや、授業中の課題の確認などを行い、定着を図った。	
	A	B	C	D									
3.6以上	3.3以上	3.0以上	2.9以下										
生徒の言語文化に対する関心を深め、基本的な語彙力等の定着を図る。	単元の中で重点的に扱う指導事項を検討し、知識・技能の定着を図る。小テストなどを活用して、家庭学習の方法を改善させる。 [「授業中に「分かった」「できた」と思うことがよくある」の割合] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>3.6以上</td><td>3.3以上</td><td>3.0以上</td><td>2.9以下</td></tr></table>	A	B	C	D	3.6以上	3.3以上	3.0以上	2.9以下	B			
A	B	C	D										
3.6以上	3.3以上	3.0以上	2.9以下										
社会科	身近な問題から国際的な分野に関することまで、社会的事象に関して関心・意欲を高めたうえで、生徒が「見方・考え方」を働かせる機会を適切に設定し、思考力・判断力・表現力を高める。また高校との連携をはかり、次のステップにつながるように知識・技能を習得させる。	授業の中でICTを効果的に活用し、指導方法の改善を図りながら、学力向上につなげていく。習得した知識技能が生きて働く力となるように、活用の場面を適切設定していく。 [授業アンケートの中の「先生の教え方に工夫が感じれ、自分自身の理解を深められている」に対する生徒自己評価の平均]	B		○タブレットを活用して、写真や資料を提示し、気づきや疑問を出し合うことで課題を共有し、知識や技能を習得させるだけではない深い学びとなる授業を意識した。 ○新聞スクラップや新聞制作の取組を通して、社会的事象への関心を高								

		<table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>3.6以上</td><td>3.0～3.5</td><td>2.5～2.9</td><td>2.4以下</td></tr></table>	A	B	C	D	3.6以上	3.0～3.5	2.5～2.9	2.4以下			
A	B	C	D										
3.6以上	3.0～3.5	2.5～2.9	2.4以下										
		様々な課題（グローバルな課題から地域課題まで）主体的・協働的に発見・探究するための学習機会を設ける。 [各学年の課題解決型授業やフィールドワークの実施回数] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>10回以上</td><td>9～7回</td><td>6～5回</td><td>5回未満</td></tr></table>	A	B	C	D	10回以上	9～7回	6～5回	5回未満	A	B	め、学んだ内容を表現する機会を設けた。 ○全ての単元・授業で学習課題を設定して授業を展開し、社会的事象の意味や相互の関係を考察したり、話し合ったりし、解決に向けて選択・判断する機会を設けた。 ○社会科フィールドワークを定期的に行い、現地での学習を積極的に取り入れ、より深い学習理解へと繋がった。
A	B	C	D										
10回以上	9～7回	6～5回	5回未満										
数学科	主体的な態度で学習に励む生徒を育成し、社会の変化に対応できる学力を養成する。	学ぶことやわかることが楽しいと感じられるように、主体的に考えられる機会を大切に授業を展開する。 [学ぶことやわかることが楽しいと感じる生徒の割合] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>75%以上</td><td>50～75%</td><td>30～50%</td><td>30%以下</td></tr></table>	A	B	C	D	75%以上	50～75%	30～50%	30%以下	A	A	○アンケート結果の平均は75.2%であった。「数学は嫌い」「授業は難しい」と答える人の割合は少ないが、友だちと相談しやすい環境をつくるなど全体的に前向きに授業を受けることができている。一方で、授業には取り組むが日頃から数学の復習をする習慣が確立していない生徒が多い。今後は、適切な問題量と課題量を設定し、基礎基本の定着と発展的な学習のバランスをとりたい。そして、附属中ならではの手法で授業を展開し、数学に対する意欲が高い生徒を育みたい。
	A	B	C	D									
75%以上	50～75%	30～50%	30%以下										
学習意欲を高める指導の工夫と改善を推進する。	デジタル教科書を使った授業を始めとし、ICTの活用についての交流を図り、効果的な使い方を実践しながら交流を図る。 <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>図れた</td><td>まあまあ図れた</td><td>あまり図れなかった</td><td>図れなかった</td></tr></table>	A	B	C	D	図れた	まあまあ図れた	あまり図れなかった	図れなかった	A			
A	B	C	D										
図れた	まあまあ図れた	あまり図れなかった	図れなかった										
理科	質の高い学力の定着を図るための集団づくり・環境づくりに努める。	生徒相互の討議や教え合い学習など生徒自らが学ぶ授業づくりに努める。そのため、知識理解だけの授業ではなく、深い理解や表現力を高める学習を授業に取り入れる。 [思考力表現力を高めるためのグループ学習を取り入れた授業の割合] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>60%以上</td><td>50%以上</td><td>40%以上</td><td>40%未満</td></tr></table>	A	B	C	D	60%以上	50%以上	40%以上	40%未満	A		○授業を通して自然事象への捉え方や考え方について深く考える生徒が増えた。また、粘り強く課題に対して取り組もうとする生徒が集団の雰囲気を作り上げている。しかし、考えを表現する場面では、課題が残った。仲間の表現に対して、聞き直したり指摘したりする
A	B	C	D										
60%以上	50%以上	40%以上	40%未満										

	中高6年間を見通しながら、生徒の興味、関心、意欲を高め、主体的に学ぶ態度を育成する。	教科書の内容にとどまることなく高校の教材や最新科学分野に触れながら、自然事物についての興味・関心を高める。 [理科の学習が「好き」または「まあ好き」の割合] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>95%以上</td><td>94～90%</td><td>89～80%</td><td>80%未満</td></tr></table>	A	B	C	D	95%以上	94～90%	89～80%	80%未満	B	A	場面よりもあやふやで交流を終了する場面がまだまだある。発表の仕方だけではなく、聞き方についてもこだわることで科学的な思考を育てる授業実践を行う必要がある。
A	B	C	D										
95%以上	94～90%	89～80%	80%未満										
音楽科	歌唱・器楽の演奏能力の向上を図るとともに、創作・鑑賞の知識やその基礎力の充実を目指す。	[授業アンケートで「分かった」「できた」と思うことがよくある生徒の割合] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>90%以上</td><td>89～80%</td><td>79～70%</td><td>69%以下</td></tr></table>	A	B	C	D	90%以上	89～80%	79～70%	69%以下	B	B	○これまでの音楽経験により「分かった」「できた」が違うので、生徒一人ひとりが達成感を感じられるように授業内容を工夫したい。[授業アンケートで「分かった」「できた」と思うことがよくある生徒の割合]は82.5%。 今年度は1・2年生でミニ鑑賞を取り入れることができたので、来年度は3学年を通じた活動になるよう、授業方法を考えたい。
		A	B	C	D								
90%以上	89～80%	79～70%	69%以下										
創作に意欲を持って取り組み作品を作ったり演奏できるように、楽曲の背景を理解し鑑賞する。 <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>6曲以上</td><td>5～4曲</td><td>3曲</td><td>2～1曲</td></tr></table>	A	B	C	D	6曲以上	5～4曲	3曲	2～1曲	B				
A	B	C	D										
6曲以上	5～4曲	3曲	2～1曲										
美術科	作品制作や鑑賞を通して、思考力、判断力、表現力を育成するため、授業改善を推進する。	鑑賞・表現の授業において、美術の創造活動の喜びを味わい、見方や感じ方を深め、美術を愛好する心情を育てる。 [授業アンケートより、「分かった」「できた」と思うことがよくある生徒の割合] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>90%以上</td><td>89～80%</td><td>79～70%</td><td>69%以下</td></tr></table>	A	B	C	D	90%以上	89～80%	79～70%	69%以下	A	A	○絵画やデザイン、立体、共同制作など様々な活動に取り組むことにより、意欲関心を高め、表現の可能性を導くことができた。 ○制作した作品を振り返り、自分の考えや思いを言葉でまとめたり、友達の意見を聞いたりすることで、物の見方や考え方を深めた。 ○鑑賞活動を通して、多くの作家の作品に触れ合い、作品から感じ取る力や作者の意図を読み取る力い繋げることができた。
	A	B	C	D									
90%以上	89～80%	79～70%	69%以下										
美術作品を鑑賞する喜びを味わせ、感じ取る力」や「思考力」「言葉による表現力」を育成する。	鑑賞活動から、「見方、感じ方を深める鑑賞」に興味関心を持たせる。 [学年末アンケートで鑑賞に興味があると答えた割合] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>90%以上</td><td>89～80%</td><td>79～70%</td><td>69%以下</td></tr></table>	A	B	C	D	90%以上	89～80%	79～70%	69%以下	B			
A	B	C	D										
90%以上	89～80%	79～70%	69%以下										
保健体育科	<体力の向上を図る> 令和5年度において本校の生徒の体力	体力向上をねらいとし、年間を通して補強運動やトレーニング的な活動及びストレッチや柔軟運動を意識した			○夏季休業中の課題で体力テストに向けたトレーニング課題を出し、個								

	は、京都府平均を下回る種目があるため、体育授業および体育的行事により体力の向上を目指す。	授業を推進する。 [2学期以降の授業内にスポーツテストを行い、4月の測定時から記録が上昇した人数の割合] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>75%以上</td><td>65～74%</td><td>50～64%</td><td>0%～49%</td></tr></table>	A	B	C	D	75%以上	65～74%	50～64%	0%～49%	B		々の課題に応じたトレーニングに取り組ませた。半年での体の成長に起因する部分もあると考えられるが、体力向上に向けた意識の向上に寄与できた。
A	B	C	D										
75%以上	65～74%	50～64%	0%～49%										
	<健康・安全教育の推進> 体育及び体育的行事の事故防止を図る。	体育・保健の授業を通して、自らの健康と安全に対する意識の向上を図る。 [1年間の事故件数（通院を伴うもの）] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>0～3件</td><td>4～6件</td><td>7～9件</td><td>10件以上</td></tr></table>	A	B	C	D	0～3件	4～6件	7～9件	10件以上	B	B	○授業前後には運動の特性に応じた準備運動や整理運動を取り入れているが、活動中の突発的な傷害が発生してしまった。施設や設備の点検も含めて、安全な授業作りを進めていきたい。
A	B	C	D										
0～3件	4～6件	7～9件	10件以上										
	<ICTの有効的な活用> 一人一台タブレット端末を効果的に活用し、主体的に学習に取り組む態度（粘り強く取り組む力・学習を調整する力）の育成につなげる。	実技の動画撮影を通して、課題解決のための取り組み方を考える機会を設け、学習内容の定着と技能の向上を図る。 [生徒にアンケートを実施し、「ICTを活用することで技能の課題解決につなげることができたか」の項目で、肯定的に回答した人数の割合] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>90%以上</td><td>80～89%</td><td>70～79%</td><td>0～69%</td></tr></table>	A	B	C	D	90%以上	80～89%	70～79%	0～69%	B		○主にスキルテストの動画撮影やレポート作成において活用した。動画を添付し、自己の動きを客観的にとらえ、合理的な体の動かし方について分析することで主体的に学習に取り組む態度の育成に寄与できたと考えている。
A	B	C	D										
90%以上	80～89%	70～79%	0～69%										
技術・家庭科	生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、より良い生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する能力資質を育む。（生活と技術についての基礎的な理解とそれらに係る技能を身に付けさせる。）	生徒に身に付けさせたい課題に関する観点と尺度を明確にした学習到達度や評価基準（実物例やルーブリック等）を示し、技能の習得に生かす。 [課題に対する実物例やルーブリック等の作成割合] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>80%以上</td><td>79～60%</td><td>59～40%</td><td>39%以下</td></tr></table>	A	B	C	D	80%以上	79～60%	59～40%	39%以下	A	A	○ここ数年で生徒の実態が大きく変わり、生徒の実態に合わせた授業作りが求められている。 ○特に実技教科における資質能力には、生徒間で大きな違いがあるため、「何をどう頑張ればいいのか」を明示しながら、今後も授業を進めていきたい。
A	B	C	D										
80%以上	79～60%	59～40%	39%以下										
英語科	中高6年間を見通して、英語4技能5領域を総合的に育成する学習指導を行い、知識・技能の定着を図る。	定期的に小テストを実施し、学習内容の理解を確かめる機会を設ける。 ペアやグループでの活動や議論を通して互いの気づきを交流させる。 [2学期授業評価アンケート「授業中に「分かった」「できた」と思うことがよくある」の割合] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>3.6以上</td><td>3.5～3.2</td><td>3.1～2.8</td><td>2.8未満</td></tr></table>	A	B	C	D	3.6以上	3.5～3.2	3.1～2.8	2.8未満	B		○2学期の授業評価アンケートで、「授業中に『わかった』『できた』と思うことがよくある」に関わる評価を行い、各学年の平均が4点満点中3.4点であった。生徒が興味を持ちやすい話題や活動を取り入れ、より理解しやすい授業を実現する。また、生徒の発言や課題へのフィードバックを今後も行い、
A	B	C	D										
3.6以上	3.5～3.2	3.1～2.8	2.8未満										

	外国語の知識・技能を活用し、発信する力を養う。	既習の言語材料を目的や場面状況に応じて活用できるよう、単元のまとまりごとにパフォーマンステストを実施する。 [各学年において1年間でパフォーマンステストを実施した回数] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>6回以上</td><td>5回</td><td>4回</td><td>3回以下</td></tr></table>	A	B	C	D	6回以上	5回	4回	3回以下	B	B	学習意欲の向上に努める。 ○発表、対話、英作文など、多様な形態でパフォーマンステストを実施した。今後も知識・技能をしっかりと定着させることを基盤にしながら、単に「覚える」だけでなく、「使いこなす」ことができる英語力の育成を目指し、授業改善を図っていく。
A	B	C	D										
6回以上	5回	4回	3回以下										
道徳	道徳の授業を中心に、自分自身を見つめ、人間としての生き方や周りの仲間や社会との関わりについて考え、表現する経験を積ませる。	自分自身や自らの属する集団について考え、表現する経験を重ねることで、より良い環境を自ら作っていきけるようにする。 [学校評価アンケートにおける、自らの属する集団や自分自身についての、肯定的な評価の割合] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>90%以上</td><td>85%以上</td><td>80%以上</td><td>80%未満</td></tr></table>	A	B	C	D	90%以上	85%以上	80%以上	80%未満	B	B	○教科書の教材をもとに、互いに考えを伝え合うことを通して、発達段階に応じて、それぞれの考えを深めていきけるような道徳の授業を目指した。 ○各学年で、自分たちの集団や、学級づくりについて考えさせられる場面があり、周りの仲間とどのように関わっていくのかについて考えさせながら、担任や学年を中心に丁寧な指導を行った。
A	B	C	D										
90%以上	85%以上	80%以上	80%未満										
	それぞれの内容項目について、生徒が考える道徳の授業を行い、道徳的価値に対する理解を深める。	1年間の指導と評価が円滑に行われるよう、担任教師間や道徳担当が連携する。 [授業内容や評価についての情報交流] <table><tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr><tr><td>25回以上</td><td>20回以上</td><td>15回以上</td><td>15回未満</td></tr></table>	A	B	C	D	25回以上	20回以上	15回以上	15回未満	B		
A	B	C	D										
25回以上	20回以上	15回以上	15回未満										

学校関係者 評価委員会 による評価	「F3！」(高校全日制・定時制、附属中学校合同の探究活動報告会)をはじめとした高校、分校、附属中の連携は進んでいる。授業についても様々な連携できているので、そのことが効果的に伝わるように発信するべきである。探究活動、部活動等で素晴らしい実績を残している中で、生徒募集に向けて良いイメージを持ってもらえるように発信を工夫することが大切である。Instagramの発信を更に進めるべきである。1日3回程は発信しないと効果がない。若者は、インスタやTikTokに興味も示すので積極的に進めるべきである。
次年度に向けた改善の方向性	昨年度御意見をいただいた探究活動における本校、分校、附属中学校のコラボは実現できたので、地域や小学校、また他の中学校や高等学校等を巻き込んだ取組に進化させていく。昨年度始まったFukustagram(Instagram)を、頻度や内容などをより充実したものにすることで、本校の良さを積極的に発信していくことで生徒募集に繋げたい。制服の変更を始め、変わっていく部分と既にある魅力、また高校文理科学科の魅力もあわせて効果的に発信し、教育活動を進化させながら選ばれる学校を目指す。